



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



養豚養鶏専攻

CONTENTS

- 1 特集 派遣実習に行ってきました！
- 2 専攻紹介 養豚養鶏専攻
- 3 専攻トピックス
- 4 研修紹介 ニューファーマーズ研修
- 5 トピックス
岡崎市と連携協定締結！
愛知農大のロゴマークが決まりました！
農業関係高等学校農場長との意見交換会
就農説明会・農業見学会を開催(農起業支援ステーション)
農業後継者等特別推薦入試で8名が合格
パソコン簿記研修を開催
生産高度化研修(養鶏)を開催
生産高度化研修(鉢花)を開催
- 6 お知らせ
農大祭2021の開催!!
令和4年度 入学者選抜試験

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



特集



派遣実習に行ってきました！

本校農学科1年生80名が9月14日から10月22日までの39日間、先進農家より実践的な技術や経営方法、農家生活を体験する「派遣実習」に行ってきました。多くの学生はこの派遣実習で、農大では経験できないことを学び、農大での実習との差を感じながら、一皮むけて成長した姿で帰ってきました。

派遣実習を通じて

校長 堤 公生

受入農家の皆様方、関係機関の御協力により派遣実習を無事終えることができました。

学生達は派遣実習を通じて、最前線の農業経営における技術や知識、経営主をはじめ受入先の方々との会話によって農業経営の厳しさや楽しさなど、実に多くのことを学ぶことができました。例年、派遣実習を終えた1年生は、自らの行動や言動に自信がみられ、目的意識も明確になってきます。今後、彼らが農業に貢献する人材として成長していくことを大いに期待しております。

実習中は、至らぬ点もあったかと思いますが、快く本校学生を受け入れていただいた農家、関係機関の皆様方の丁寧、熱心な御指導に対して、厚く御礼申し上げます。

派遣実習に参加して
(学生から)



果樹専攻
服部碧記さん

Q 派遣期間中、どんな作業等
をしていますか？

無農薬レモンの管理作業の他、ミカンの収穫・調整をやっています。取引先であるスーパーや道の駅への出荷にも同行させてもらい、こだわりを持つスーパーとの取引・見学など、考えることが多いです。

Q 派遣実習でどんなことを学
びたいですか

特殊な品目(初恋レモン、有機栽培ミカンなど)のため販路は河合さんが開拓してきたとのこと、今はそれら売り方に興味がわいて
います。

Q 派遣実習の感想

河合さんはいろいろな経験を積ませてくれます。特に作業部屋では熱心に話を聞かせてくれます。河合さんには本を読むことを勧められました。本を読むことで河合さんの話の意味を少しずつ理解できるようになりました。ちなみに河合さんのおすすめの本は、「セレンディップの三人の王子たち」です。

受入農家
河合果樹園(豊橋市)

Q 受入学生の感想等

話や仕事の飲み込みが早く驚いています。また、服部さんの真剣さが伝わってきます。今後も将来の相談にのるし、意思と覚悟があるならウチの一分野を任せてもいいくらい期待しています。





**鉢物緑花木専攻
永坂博登さん**

**Q 派遣期間中、どんな作業等
をしていますか。**

観葉植物の挿し木や鉢上げなどを
していますが、生産量が農大に比べ
とても多いので大変です。単純作業
の繰り返しですが、受け入れ農家さ
んやパートナーさんとのお話しを楽しみ
ながら、集中力を維持して作業して
います。

**Q 派遣実習でどんなことを学び
たいですか**

自分の家が花や野菜の実生苗を生
産しているのですが、他の農家さん
の栽培方法を学び、将来自身が農業
を継いだときに活かしたいと考えて
います。周辺の生産者さんのほ場も
案内していただき、効率的なほ場作
りのヒントを得ることができまし
た。

Q 派遣実習の感想

挿し木等の実家では行わない作

業が新鮮でした。受け入れ農家さ
んやパートナーさんが温かく接してく
ださい、作業中に行っている会話を
楽しく感じています。学ぶことが
非常に多ので、今後の人生に活か
していきたいと思っています。

**受入農家
富永植物園(西尾市)**

Q 受入学生の感想は

お願いした作業をしつかりやっ
ていて、パートナーさん並の作業量で
大変だと思えますが、頑張ってく
れているしコミュニケーションも
上手なので安心していきます。農業
を継ぐことは大変だと思えます
が、他品目の生産現場から学び、自
身の将来の経営に活かしてほしい
と思います。近い地域なので、今後
も農家同士として関係が続けばい
いと思います。



**酪農専攻
澤村日菜さん**

**Q 派遣期間中、どんな作業等を
していますか？**

哺乳、搾乳、給餌など、様々な
作業をしています。牛の直腸検査
も体験させてもらい、卵巣を触る
ことができたときはうれしかつ
たです。

**Q 派遣実習でどんなことを学
びたいですか**

大規模酪農経営に興味がある
ので、実際の酪農現場ではどのよ
うな点に注意して管理をしてい
るのかを学びたいです。また、将
来家畜人工授精師の資格を取得
するため、牛の人工授精の知識を
深めたいです。

Q 派遣実習の感想

作業範囲は広いですが、日々多
くのことを学ぶことができると
も

楽しいです。様々なことを吸収
し今後に活かしていきたいと思
います。

**受入農家
エルファームサカキバラ
(半田市)**

Q 受入学生の感想は

とても意欲的で、楽しんで作
業していることがよく伝わって
きます。また、わからないことも
どんどん聞いてくれるので、教
え甲斐があります。



専攻紹介

養豚・養鶏専攻

養豚

養豚専攻では、8名（1年生4名、2年生4名）の学生が、豚の交配から分娩、育成、肥育、出荷に至るまでの一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。特に、派遣実習を終えた1年生は、担当する母豚を決め、繁殖成績・肥育成績などを競い合うことで、責任感を持って飼養管理ができるようにしています。また、出荷した豚の枝肉を食肉市場で調査したり豚肉の食味試験を行い、おいしい豚肉作りに役立つとともに、畜産加工演習ではハムやソーセージを作っています。



分娩前の母豚



分娩



離乳



肉豚の体重測定

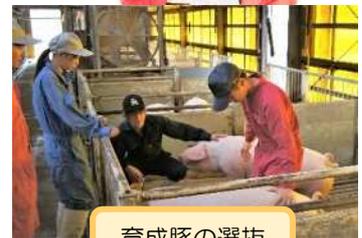
おいしいハムができた！



豚はかわいいヨ！



育成豚の選抜



加工演習



食味試験



枝肉調査

養 鶏

養鶏専攻は、7名（1年生4名、2年生3名）の学生が、愛知県の特産である「卵用名古屋コーチン」を主体に、白色レグホン、ロードアイランドレッド、アローカナ、烏骨鶏を合わせて2,400羽飼養しています。育雛・育成舎はウィンドウレス、成鶏舎は開放とウィンドウレスのタイプの違う2鶏舎があり、育雛から成鶏までの飼養管理技術を一貫で学ぶことができます。また、鶏種や飼養形態による飼養管理方法の違いを学習できます。飼養管理ばかりではなく、実習販売等を通して、売り方やブランド化など販売方法についても学んでいます。



集卵(開放鶏舎)



集卵(ウィンドウレス鶏舎)



洗 卵



暑熱対策(ビタミン剤給与)



入すうしたヒナ。かわいい!



パック卵



解 剖



大人気!
農大プリン

養鶏専攻生(1・2年生)



実習販売



校外学習(GP しゃ-見学)



ロードアイランド
レッド種 (赤玉鶏)



名古屋
コーチン



消毒作業

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。



定植したキュウリ、トマト、ナスが順調に育っています。10月に入りキュウリの収穫が始まり、これから本格的な収穫シーズンが始まります。キュウリは今年初めてココバックというヤシガラ培地での栽培を行っています。現場でも普及し始めた栽培方法のため、試行錯誤を繰り返しながら栽培を行っています。これから来夏まで収穫が続きますが、冬場の草勢管理や病害に気をつけながら収穫シーズンを乗り越えていきます。

キュウリの収穫が始まりました！



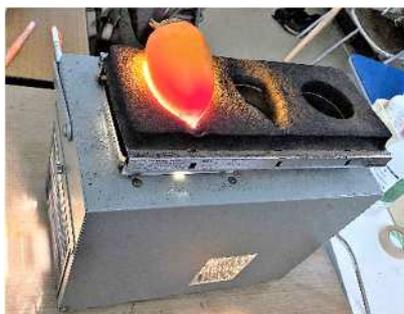
今作初のキャベツの収穫が始まりました。7月上旬に播種したキャベツは夏の暑さを乗り越えて見事に結球しました。キャベツの定植は7月から3月にかけて14回に分けて行われ、収穫は来年の5月下旬まで続く予定です。これから週3回、学生が頑張つて収穫を行っています。採れたてのキャベツは瑞々しく、切り口から水が滴り落ちるほどです。新鮮なキャベツは水曜日の直売で販売予定なので是非味わってください。

キャベツの収穫開始！



作物専攻では10月18日、20日に県外学習として北海道への視察研修を行いました。石狩農業改良普及センターでは、北海道の稲・小麦・大豆作について実際の収穫物を見ながら説明を受け、愛知県とは一味違う水田作を体験することができました。また、北海道米の試食を通じて、ブランド化について学びました。北海道大学では、全自動トラクターや自動収穫機の見学を行うとともに、寒冷地での水稲研究や育種について学びました。

県外学習で北海道の大規模水田作農業を学ぶ！



筆柿は、種子の有無で甘柿と渋柿が混在します。そのため、選果の際は渋果判定機を使って甘柿と渋柿を選別します。実習では、渋果判定機の利用の前に、甘柿の見た目の特徴（発色が濃い、果実の肩部分が丸い等）から、見分ける方法を学習しました。甘柿は直売で販売しますが、渋柿は12月以降、干し柿に加工する予定です。

9月上旬から筆柿の収穫が始まりました。

柿の収穫が始まる





花きの流通を学びに 早朝の市場へ

2年生が愛知名港花き卸売事業協同組合を訪問し、朝早くから行われている切花のセリの様子を見学しました。学生たちは、切花の箱が電子システム上であつという間に競り落とされ、自動搬出設備に載せられていく様子に興味津々で、眠いはずの目もパツパツでした。また、同じ建物内の仲卸売場には、専攻実習で栽培しているものと同じ品種の花が並んでおり、市場の存在が少し身近に感じられるようになった一日となりました。



コチョウラン農家を 視察

豊橋市のコチョウラン農家、松浦園芸さんの温室を見学させていただきました。園主である松浦さんからは、生産物に対するこだわりや、農家が価格を決めるための唯一無二の商品づくりについて詳しく教えていただきました。農大での栽培と違う部分への質問にも丁寧に説明してくださり、明日からの栽培に活かすことができます、よいお話を聞くことができました。



双子が生まれました！

10月に入り、牛たちの分娩ラッシュが始まりました。分娩予定日が近づいてくる度に、いつ生まれてくるかな、とそわそわすると同時に、どんな子牛が生まれてくるのかな、とワクワクした日々を過ごしています。そんな中、交雑種（母がホルスタイン、父が黒毛和種）の双子が生まれました！。生後2ヶ月程度で出荷する予定ですが、それまで愛情を注いで育てていきます。



豚肉の食味試験を 行いました

10月6日、学生のプロジェクト研究のため、豚肉の食味試験を行いました。市販飼料で育てた豚肉と、パン、うどん、ご飯、ラーメン等の食品製造副産物で育てた豚肉を比較しました。当日は、ロース部分を型でくり抜いた肉をホットプレートで片面25秒ずつ焼き、本校の職員と学生約30名に試食してもらいました。結果は、卒業論文にまとめます。



実習販売で 「あきたま」の販売を 開始しました

5月に餌付けした赤・白玉鶏及び卵用名古屋コーチンが10月上旬から中旬にかけて、卵を産みだしました。水曜日に行われる実習販売で「あきたま」として、販売を開始しましたが、通常の卵よりは小さめですが、卵かけごはん等に最適です。ぜひ、農大に足を運んで頂き、お買い求めください。



研修紹介

ニューファーマーズ研修

ニューファーマーズ研修は、愛知県内で、Uターン就農や新規で就農を目指す方を対象に農業経営に必要な基礎的知識・技術などを効率的に習得するための研修です。

4月中旬から研修はスタートし、翌年2月下旬までの約10か月間実施しています。

この研修では、実習は自己ほ場または先進農家で行い、本校で農業経営に必要な基礎知識を学びます。さらに、産直施設や市場等を見学したりすることで、農産物の販売やマーケティングについて現場で学びます。

また、研修期間中に実習先のほ場でプロジェクト活動を行い、研修終了時にプロジェクト活動報告会で成果を発表します。この場で、営農計画も併せて発表しています。

本研修はJAの新規就農者育成支援事業と連携しており、JAあいち三河のいちご塾、JA西三河のイチゴスクールの研修生も多く受講しています。

本年度は、20名が受講しており、受講を通じて、研修生の交流も図っています。



講義風景



農業機械実習



受講生で話し合い



成果発表

●研修生の主な栽培品目	人数	地域
水稻	1	春日井市
ブルーベリー	3	名古屋市、稲沢市、知多郡
ナシ	3	刈谷市、豊田市、名古屋市
モモ	2	豊田市、名古屋市
イチゴ	8	岡崎市、西尾市
ナス	2	岡崎市、豊田市
ネギ	1	江南市
キャベツ	1	田原市

研修生の声

○ 加藤義昭さん



研修受講までは製造から生産管理の仕事をしていました。

以前より、自分の好きな事を仕事にしたいという思いがあり、農業の道へ進む事を決めました。

新規就農の事を調べている時に、農大のニューファーマーズ研修を知り、講義内容や農家実習が自分に必要な事と思い受講を決めました。

農大では、農業に必要な知識を得られ、同じ目標を持つ仲間も出来、農家実習では、農家さんからブルーベリーや観光農園の事を、深く教えてもらえて、とても充実した日々を送っています。

将来の夢は、美味しいブルーベリーの味を沢山の人間に知ってもらい、ゆったりと寛いでもらえる雰囲気の良い観光農園を作りたいです。

○ 中野あづささん



実家がイチジク農家、親戚がイチゴ農家で小さい頃から農業に興味がありました。高校、大学で農業を勉強し花に興味を持ち、農業法人へ就職して花の育種をしました。その後、野菜（トマトとイチゴ）栽培の仕事をしていく中で、親戚がイチゴ農家ということもあり、イチゴ栽培に憧れを持つようになりました。ちょうどその時、JAのイチゴに関する研修の広告を見て、今しかない！と思い、イチゴ農家になることを決意し、JAの研修と農大の研修を並行して受講することにしました。

研修を実際に受けてみると、学生に戻った感覚で講義を受講でき、楽しく勉強できています。同じイチゴで就農する研修生や、イチゴ以外の品目の研修生とも情報交換することができ、横の繋がりができたことがいちばん大きいです。

研修終了後は、まずは土耕でイチゴ栽培を行い、徐々に規模拡大しつつ、高設栽培も導入したいと考えています。身体を酷使せず、女性にもできるようなゆとりのある農業をすることで、人生を豊かなものにしていきたいです。

トピックス

岡崎市と連携協定締結！

本校では、地域に開かれた学校づくりとともに学生の社会活動への参画を進めるため、地元岡崎市と相互の持つ資源や人材を活用して地域農業を盛り上げることを目的に10月28日(木)に岡崎市と連携協定を締結しました。締結式では、中根岡崎市長と本校堤校長が協定書に署名し、学生会鈴木結子会長、倉橋沙奈副会長、橋本真優書記の3人から本校の概要などを発表、引き続き、農大生が生産した農畜産物を市長に贈呈しました。

中根市長からは、「本校との連携により地域農業の振興や担い手育成がお互いに図られるとともに、学生の皆さんの学生らしい柔軟な発想が岡崎市の中で活かされていくことを期待します」とのあいさつがあった。



中根市長と堤校長による協定書署名



協定書の交換



学生会役員から農大概要や連携について発表



学生から中根市長に農畜産物贈呈



(右から)中根市長、農大学生会の鈴木会長、倉橋副会長、橋本書記

トピックス

愛知農大のロゴマークが決まりました！

農業大学校のブランドイメージの統一を図るため、本校のロゴマークのデザインを学生、職員から募集しました。応募総数は37点！。職員、学生会による厳正な投票審査の結果、4点が選ばれ、その中で最優秀賞を愛知農大のロゴマークに決定しました。今後、最優秀賞の作品は、本校のブランドの創出や地域活性化につながる取組を推進していくため、大学校の販売物、広報資料、イベントなどに活用していきます。



審査会の様子



最優秀賞 作物専攻一同



最優秀作品



優秀賞 竹内さん



優秀賞 太田さん



優秀賞 山室さん



賞	受賞者
最優秀賞	作物専攻一同
優秀賞	竹内 翔一
	太田 幸輝
	河合あいら
	山室 有里 天野妃南子



決定したロゴマーク

トピックス

農業関係高等学校農場長との意見交換会

10月1日（金）に、農業関係高等学校農場長との意見交換会を行いました。

農大の概要と近況報告、農業高校全体の動向説明に続き、農高と農大の技術交流について意見交換を行いました。昼食は和耕寮で提供されているメニューを堪能していただき、午後は農大の稲刈り実習や ICT 温室、流通センターの見学会を実施しました。各見学先では、農高を卒業した学生が説明を行い、農大で成長した姿をみせる機会となりました。



学生による農場の説明

就農説明会・農業見学会を開催（農起業支援ステーション）

10月11日（月）農起業支援ステーションは第6回就農説明会を開催しました。今回は、就農までの道すじや各種支援制度などの説明会の後に見学会を開催し、参加者8名の皆さんに校内の機械エリアや各専攻のエリアで就農に必要な機械・施設などについて説明しました。

参加者からは、「具体的な道すじが見えてきた。」「具体例が聞けて良かった。」など前向きな感想が多く、今後は希望者には個別相談を行い、就農に向けて支援を行います。



校内で説明

農業後継者等特別推薦入試で8名が合格

9月30日（木）、令和4年度入学農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験が行われ8名が合格しました。今年度は、農業後継者を対象にした募集（特別推薦Ⅰ）の他に、新たに、非農家でも雇用就農を含む就農意欲の高い生徒を募集（特別推薦Ⅱ）しました。その結果、特別推薦Ⅰで3名、特別推薦Ⅱで5名が合格しました。試験当日の面接では、受験生は緊張しながらも、将来の農業経営や地域の課題、高校生活で打ち込んできたこと、将来の夢について述べ、真剣かつ一生懸命に準備してきた様子がうかがえました。合格した8名は、やがては地域や産地でリーダーシップを発揮しながら活躍する農業者に育つことが期待されます。本校の教育活動に大きな期待と夢を持って志望してくれたことに応えられるように、本校職員も学習環境を整備していきたいと思えます。

パソコン簿記研修を開催

10月4日（月）に本校主催で経営管理研修「パソコン農業簿記入門」を開催し、県内各地から16名の参加がありました。樋田久講師から、青色申告の概要や農業簿記の基礎知識とパソコンを活用した農業簿記ソフト（ソリマチ）の利用法について学びました。参加者は、最初はゆっくり入力を進めていきましたが、出題が進むにつれ、スムーズな入力ができるようになりました。最後に講師から、「農業経営は診断が最も重要であるのでパソコン簿記を活用し、その結果をしっかりと考察して欲しい」とのコメントがありました。



情報処理研修室でパソコン実習

生産高度化研修（養鶏）を開催

10月21日（木）、生産高度化研修（養鶏）[共催：農業総合試験場の「養鶏に関する実用化技術研究会」]が「名古屋コーチンを主体とした試験研究成果」をテーマに本校で開催され養鶏農家ら49名が参加しました。

愛知工業大学の塚田敏彦教授による「画像処理利用による鶏卵の評価技術の開発」、農業総合試験場の3名の研究員から名古屋コーチンに関する飼養技術、育種に関する研究成果の提供がありました。

講演の後、活発な質疑が行われ、今後の名古屋コーチンの一層のブランド強化に向け有意義な機会となりました。



塚田講師の講演

生産高度化研修（鉢花）を開催

10月7日（木）生産高度化研修（花き：鉢花）が豊明花き株式会社で開催されました。研修会は昨年度に引き続きオンライン形式で行われ、現地の会場参加者18名とオンライン（Zoom）で19名が受講しました。今年度は「鉢物のオンライン商談会の進め方」をテーマに豊明花き（株）重村修一郎常務取締役から「豊明花きの取り組み」、タテマツデジタルソリューション（株）立松直文代表取締役から「ゼロから学び始めるデジタル営業の基礎作り&拡大作戦」のそれぞれ講演がありました。オンライン受講者からは「現地に行かなくても研修を受けられるので今後もオンラインでやってほしい」との意見が聞かれました。



立松直文氏からの講演

お知らせ

農大祭2021の開催！！

12月4日（土）農大祭が開催されます。
各専攻による農大産農畜産物の直売や展示、農大キャンパスツアーなどを行います。
みなさん、ぜひお越しください。



愛知県立農業大学校

令和4年度 入学者選抜試験

●特別推薦入学試験（終了しました）

出願期間 9月14日(火)～9月17日(金)
試験日 9月30日(木)
合格発表 10月8日(金)
試験科目 面接試験
募集人数：20名程度（各専攻5名程度）



●一般推薦入学試験（終了しました）

出願期間 9月29日(水)～10月15日(金)
試験日 11月1日(月)
合格発表 11月12日(金)
試験科目 小論文（800字以内）面接試験
募集人数：定員100名のうち2/3程度

●一般入学一次試験

出願期間 11月11日(木)～11月26日(金)
試験日 12月10日(金)
合格発表 12月21日(火)
試験科目 数学Ⅰ、小論文（800字以内）、面接試験
募集人数 定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数

・詳細は、本校ホームページを御覧ください。